

3月議会での主張から

「新530運動」

豊橋市議会の一般質問で公明党のベテラン議員が「新530運動」を提案した。「ごみの分別収集やりサイクル、どれをとっても、530発祥の地・豊橋にふさわしい現状ではない。市制100周年を機に、市長が宣言すべきだ」と訴えた。

容器包装リサイクル法が今国会で改正され、来年4月に施行される。市町村が分別収集を進めリサイクル費用を節約すると、節約分をメーカーなど事業者と折半する仕組みや、レジ袋など無料配布されている容器包装の発生抑制も盛り込まれている。

議員は内容を説明しながら、さらに続けた。新聞各紙の名を挙げて、販売店に組合を作ってもらい、こまめに回収してはどうか。

横浜市を例に取り、中田市長を先頭に「G30キャンペーン」を展開中。GはごみのG、30は30%減量の意味。「豊橋市廃棄物計画」によると、5年後のリサイクル率28%、市民1人当たりの1日ごみ量928g横浜市は849gだ。「豊橋はもはやごみゼロ先進都市ではない」

「豊橋で、プロジェクト ならぬプロジェクトGに取り組んではどうか。530発祥の地として自負できる美しいまちにしたい」。

9月16日に、市制100周年を記念した「530のまち・環境フェスタ」が予定されている。(3/13東日新聞 風針より)

早寝・早起き・朝ごはん

最近の「文部科学白書」で連続指摘される児童生徒の学力低下問題。「読解力が低下傾向にあるなど、世界のトップレベルとはいえない」とも明記している。

しかし、その最大理由は日本社会の夜型がもたらした子どもの睡眠不足だと指摘するのが「百ます計算」で有名な陰山英男氏(尾道市立土堂小学校校長)。

脳そのもののパワーがダウンしている。その具体化は

「早寝・早起き・朝ごはん」。子どもが早起きすれば、親も早起きし社会全体が朝型に変わり、みんなが健康になり、元気になる。

「早寝・早起き・朝ごはん」は単なる教育スローガンではない。日本社会の再生の大きなキーワードではないだろうか。

100億かけて子ども施設は必要か

3/21夕方中京テレビのニュース特集「100億円かける豊橋のこども施設は必要か」が放映された。市民病院跡地でいよいよ工事の始まる「子ども関連施設等」についての報道である。意図的に箱モノ行政と決め付け、企業会計の病院跡地を購入するために土地代が70億円含まれていることなどは触れずに、財政難の時代の箱モノ行政という報道の姿勢はいかに。

よって翌日3月22日の予算委員会。

市長は、明日を担う豊橋っこの瞳が輝くように100億円かけて、夢をプレゼントしようとしている。ところがその思いが市民に十分に伝わっていない。なぜか「子ども関連施設」として始めたからです。

福島駅前に昨年7月、「子どもの夢を育む施設」(こむこむ館)が、子どもたちの出会いと中心市街地活性化の新しい拠点となってオープンして、連日、多くの親子連れが訪れ、にぎわっている。(こむ=子夢、COM=おいでよ)

福島市は構想段階から「子どもの夢を育む施設」と市民にアナウンスしたわけですよ。中身は同じようでも市民に与えるイメージインパクトが違うわけです。

私はかって「『子ども関連施設』でなく『多世代が集うエキサイティング施設』としたほうがいい」と、申し上げたが、市長は「子ども施設」といっちゃったから、「100億円もかけて子ども施設？」と？マークがついてしまう。だからそれを意義付けるためにコテコテにしていく。

広報戦略の貧弱さが市民にどのような影を落としていくのかということです。(END)